豊岡市議会議員（豊義会）九州視察研修報告書

1. 目的

昨今の移住や定住については、様々な自治体で独自色を出した施策を打ち出している。中でも、九州は多くの自治体が手厚い支援策を行っている。

その上で、今回は先進的な移住定住施策を多く展開している大分県臼杵市の取り組みについて視察を行うことにより、豊岡市に生かすことのできる移住定住施策を学ぶことを目的とする。

2. 日時・場所

2026 年 2 月 10 日（火）10 時～11 時 30 分　臼杵市役所臼杵庁舎

3. 出席議員

米田達也（幹事長）、小森弘詞（副幹事長）、中尾浩二（会計）、岡本昭治
芹澤正志、森垣康平、前田敦司、荒木慎大郎、青栁順子

4. 対応者

臼杵市役所地域力創生課 定住促進グループ 総括課長代理 東 貴則 氏
臼杵市役所地域力創生課 定住促進グループ 主事 吉川 瑞起 氏
臼杵市議会事務局 副主幹 工藤 真里子 氏

5. 内容

⑴臼杵市の簡単な概要

臼杵市は旧臼杵市と旧野津町が平成 17 年に合併してできた市である。人口は約 33,000 人と豊岡市と比べ半分以下であるが、県庁所在地である大分市に隣接し、仕事は大分市であるが住まいは臼杵市であるという人が多くいる。

⑵移住定住施策の組織体制の経過

現在行われている移住定住施策は平成 25 年度から行われている。
具体的には平成 25 年度に「臼杵市協働まちづくり会議」を設置し、組織の横の連携を図りながら定住促進や移住支援連携について部・課をまたいで検討を行い、平成 30 年度に移住・定住相談や空き家バンクに関する業務を秘書・総合政策課内の「グループ」という位置づけで一本化、令和 4 年度にグループから課へと発展した、組織ありきの体制ではなくイシューを特定して組織を作っていくスタイルで体制を確立していた。

⑶移住定住施策の内容

主な内容は以下の６つである。
①空き家バンク

②うすき移住体験ツアー
③オンライン移住セミナー＆体験ツアー
④臼杵おためしハウス
⑤各種移住に関する補助制度
⑥各種定住に関する補助制度
⑦関係人口創出 つながりネットワーク「臼杵とつながり隊」
現時点で移住定住施策については、全て自前で行っておられ、委託等でアウトソーシングは行われていない。

とかく移住定住施策では、特に移住者に手厚く支援を行っているように見られるが、臼杵市では、市内在住の子育て世帯のような若い世代にも各種定住に関する補助制度が使ってもらえるよう制度設計をされている。また、奨学金返還支援制度なども創設し、大学卒業直後の年代をターゲットとした人口流入施策にも力を入れている。

6. 所感

今回の視察では、九州という移住定住の激戦区内で勝ち抜くための施策について学ぶことができた。特に、移住者だけではなく、既に住んでいる子育て世帯に対しても効果的な施策を打ち出し、不公平感のより少ない形としている部分については、豊岡市としても実行できる部分があると考える。

また、組織体制の構築の仕方や事業・施策の実行にあたって業務委託等でアウトソーシングしていない部分についても特筆すべき点がある。もちろん、メリット・デメリットはあるが、自前で行うことのメリットも踏まえながら誰が・どのように移住定住を推進していくか考えていく必要があると実感した。